

2017 TSUNAGU

生協・環境・社会活動報告書



生活協同組合 パルシステム東京は 食を中心に「安全・安心な暮らし」を組合員に お届けする生協です。

パルシステム東京の理念

「食べもの」「地球環境」「人」を
大切にした「社会」をつくります

- 1. 食べものの安全性にこだわり、生活者の暮らしと健康を守ります
- 2. 日本の食料自給力を強めるため、生産者とともに産直運動を発展させます
- 3. 安全・品質・価格・産直・環境面でもっと優れた「商品」をつくります
- 4. 女性の社会参加を応援します
- 5. 平和、地球環境、福祉、たすけあいの活動を広げ、地域社会に貢献していきます

2020ビジョン

ともに つくる くらしと地域

パルシステム東京は、生活協同組合として、組合員の暮らしを多様に創造し、
一人ひとりが輝いているコミュニティづくりと持続可能な資源循環型社会づくりをすすめます



- ①組合員の多様な暮らしを、「安全」「安心」な商品とサービスで支えている
- ②組合員の活動が多彩に広がり、多様な参加が実現している
- ③すべての事業と活動に、「福祉」の視点を貫いている



- ①地域の活性化と調和につながる事業と活動をつくりだしている
- ②地域のNPOや行政等と連携し、誰もが安心して住み続けることのできる地域をつくりだしている
- ③地域性をいかした活動に、誰もがいきいきと取り組むことができる環境をつくりだしている



- ①産直運動で日本の農林水産業を守り、活力のある地域をうみだしている
- ②平和で公正な社会づくりに向けた運動をつくりだしている
- ③資源循環型社会づくりに、事業と運動の両面から取り組んでいる

編集方針

生活協同組合パルシステム東京は、「食べもの」「地球環境」「人」を大切にした「社会」の実現に向けた活動をステークホルダーの皆様にご理解いただくために、毎年「TSUNAGU 生協・環境・社会活動報告書」を発行しています。

本冊子では、継続的に行っている「食べもの」「地球環境」「人」に関する活動の中から主なものを報告しています。また新たな組合員ニーズに対応する「事業面のチャレンジ」、全国生協に先駆ける「新電力事業の展開」を特集として取りまとめました。

多くのステークホルダーの皆様とのコミュニケーションの基点となるよう、事業の特徴を踏まえた報告を心がけています。

ステークホルダー

組合員の皆様、お取引先様、行政、諸団体など組合員・事業として取り組みを進める皆様、および職員

対象期間

2016年4月1日～2017年3月31日

対象範囲

パルシステム東京 本部事務所／配送センター（17カ所）／福祉事業所（27カ所）／保育園（1カ所）

INDEX

パルシステム東京の理念・2020ビジョン	2
編集方針	3
パルシステム東京について	
ごあいさつ	4
組織概要	5
事業概要	6
特集	
1. 多様化する社会のニーズに応えるために	8
2. 再生可能エネルギーを広げるために	10
「食」の取り組み	
1. 安全な「食」を求めて	13
2. 商品の価値を伝える	16
3. 食料自給力の向上をめざして	18
「環境」の取り組み	
1. 地球温暖化を防ぐために	21
2. 一人ひとりの暮らし方を見直す	23
3. 身近な自然を守る	26
「人」の取り組み	
1. 地域とつながる	29
2. 平和な暮らしを守るために	32
3. 被災地の復興を支援する	34
働く環境づくり・人材育成	36
リスクマネジメント	38
2020ビジョンの実現に向けて	39

お問い合わせ

本冊子に関する
ご意見、ご要望、お問い合わせは
palsystem-tokyo@pal.or.jp
もしくは右記QRコードからお寄せください。



ごあいさつ

競争の時代から協同の時代へ

2016年11月、「協同組合の思想と実践」がユネスコの無形文化遺産に登録されました。国連の掲げる持続可能な開発目標（SDGs）にも役割を担うものとして、協同組合があげられています。時代は今、新自由主義的な資本主義社会が行き詰まりを見せ、その最後のあがきのような強者による世界支配の動きと、市民による新たな社会づくりとが拮抗する転換期にあります。私たちはその中で、協同組合の一角を担うものとして、誇りを持ち、理念に掲げる社会づくりをめざし活動している46万人の協同組合です。

2016年度は一般家庭への電力の自由化を受け、組合員への再生可能エネルギーを中心としたパルシステム電力の供給も始めました。電力事業に取り組んで5年目になりますが、事業はグループに広がり、今後の発展が期待されています。高齢者と幼児の共生ケアに取り組む福祉事業も軌道に乗り、2017年度は2件目の保育園を建設します。社会を「選ぶで変える!」ことをめざす商品活動にもグループ全体で取り組み、さまざまな形で進めてきています。

今後とも多くの皆さんと協同し、つながって、未来に向けたうねりを作っていきたいと思ひます。よろしくお願いいたします。



生活協同組合 パルシステム東京
理事長 野々山 理恵子



生活協同組合とは

パルシステム東京は生活協同組合です。生活協同組合（以下、生協）は、組合員の生活の文化的・経済的改善向上を図ることを目的に設立された組織です。

一般の企業と違い、組合員自らが出資し、自分たちの暮らし全般をよくしていくためにそれぞれが思いを寄せ合いながら組織の方針を決め、それに基づいた商品・サービスを利用します。組合員一人ひとりが、生協という組織の「主体」なのです。



組織概要

名称	生活協同組合パルシステム東京
設立	1970年4月1日
役員	理事長 野々山 理恵子 専務理事 辻 正一 常務理事 佐藤 健二 業務執行理事 長屋 豊 業務執行理事 戸井田 直人
事業エリア	東京都全域（島嶼を除く） 本部所在地 東京都新宿区 配送センター 17ヵ所 福祉事業所 27ヵ所 保育園 1ヵ所
職員数	1,796人（定時職員含む）
組合員数	46万4,135人
総事業高	732億1,070万円
出資金	172億1,157万円

※数値は2017年3月末現在

パルシステムグループ

商品や環境政策などについて考え方を共有している10^(※)生協が、パルシステムグループを構成しています。パルシステム東京はこのグループの中で、総事業高と組合員数ともに最大規模の生協です。

※利用事業会員を含めると13生協

●パルシステム連合会は
商品開発、仕入れ、商品管理、物流、
情報システムを担当

●それぞれの生協は
商品やサービスの供給、福祉事業、
組合員活動の支援ほかを担当

pal*system パルシステム生活協同組合連合会 パルシステムグループ 会員生協 約155万世帯	
パルシステム東京	
パルシステム神奈川ゆめコープ	
パルシステム千葉	
パルシステム埼玉	
パルシステム茨城	
パルシステム山梨	
パルシステム群馬	
パルシステム福島	
パルシステム静岡	
新潟ときめき生協	

事業概要

宅配事業

食の安全・環境に配慮した商品やサービスを組合員にお届けするパルシステム東京の基幹事業です。

2016年度は組合員拡大を順調に進め、休眠中の組合員への利用再開も促進しました。またクリスマス・お正月用品、予約登録米の利用促進に専用注文用紙を活用し、好調に推移しました。若年層の女性を応援するライフステージ別チラシでは、家事や育児、仕事、くらしに寄り添った知恵やヒントを掲載し、好評を得ました。

2016年度 供給高 **702億4,300万円** (前年度比100.8%)



福祉事業

福祉事業所「陽だまり」では、デイサービス、ホームヘルプ、ケアマネジメント、認知症対応型デイサービス、グループホーム、福祉用具貸与を展開しています。

2016年度は12月にパルシステム東京で3ヵ所目のグループホーム「中野中央陽だまり」を開所しました。木を基調とした落ち着いた居室に、人が立ち上がるなどの動作がしやすい高さのダイニングテーブルを取り入れるなど、さまざまな工夫を凝らしました。

2016年度 福祉事業収入 **10億0,400万円** (前年度比104.0%)



配送センター



ライフスタイルに合わせて選べるカタログや注文方法



中野中央陽だまり



外観

組合員に聞きました

パルシステム東京の福祉事業に期待したいものは何ですか (複数回答可)

- 高齢者介護事業に積極的に取り組んでほしい.....50.9%
- 保育園など子育て事業に積極的に取り組んでほしい.....49.4%
- 障がい者への支援に積極的に取り組んでほしい.....29.3%

(2016年度アンケート結果より)

パルシステムは、商品づくりや改善・品質向上はもちろん、より利用しやすい事業に向けた改革や新しい取り組みを積極的に進めるために、より多くの組合員の声を活かす仕組みを構築しています。

パルシステム東京直営の保育園

2014年3月より新設の「府中陽だまり」の複合施設として「ばる★キッズ府中」を開園しました。木のぬくもりが感じられるフロアで、園児とお年寄りが自然な形でふれ合う共生ケアを設けています。認可外でのスタートでしたが実績が評価され、2017年1月、府中市運営事業者審査会にて、「東京都認証保育所設置・運営事業者の候補者」として選定されました。今後は認証保育園移行への準備を進めます。



「陽だまり」デイサービス、グループホームの利用者の皆さんとの交流イベントや、季節ごとの食育イベントなどを開催



特集1

多様化する社会のニーズに応えるために

2016年7月、インターネット情報サイト「日経DUAL(デュアル)」による「食材宅配ランキング2016」にて、パルシステムが1位に選ばれました。夫婦共働きや子育てに関する項目で高得点を獲得したほか、加入手続きから注文、配達までのスピードなどが評価されました。

パルシステム東京は組合員一人ひとりから寄せられる「こんなことに困っている」の声に応え、これからも「組合員一人ひとりが主役」という精神を守りながら、時代のニーズに合わせた進化を続けていきます。



多様なライフスタイルに対応しています

パルシステムは働く女性のニーズに応え、他生協に先駆けて1990年に「生協の個配」を開始し、2001年にはインターネット注文にもいち早く取り組みました。

組合員のくらしやとりまく環境はますます多様化しています。組合員の声に真摯に向き合うことで、注文方法や配達日時の仕組みなど、一人ひとりのニーズに応えるサービスを次々と生み出しています。



カタログを見ながら、電卓感覚で注文できるスマホアプリ「ぼちパル」



タベソダ

加入から注文までアプリで完結するサービス。カタログはなく、注文のあった週のみ配達します。

2016年度 受注高

6億7,800万円
(前年度比205.3%)



指定便

組合員が希望する日時に、最短で注文3日後にお届けする配送システム。不在時に受け取れない方に好評です。

2016年度 受注高

3億3,700万円
(前年度比207.1%)



きなりセレクト

直接カタログに注文を書き込む、注文用紙一体型カタログ。文字や写真が大きく見やすいと、特に高齢者の利用が伸びています。

2016年度 受注高

1億3,000万円
(前年度比246.9%)



アレルゲンアラート

インターネットやアプリで注文する際、あらかじめ登録したアレルゲンを含む商品を選ぶとアラートでお知らせするシステム。食物アレルギーに配慮したくらしをサポートします。

高齢者のくらしと安心を支えます

見守り協定

パルシステム東京は、事業や活動を通じて誰もが安心して暮らせる地域づくりに貢献することを掲げています。毎週同じ曜日・時間帯に同じ配達担当者が訪問する宅配事業の特徴を活かし、自治体が進める見守り活動にも協力しています。

2017年3月末までに都内46の行政区と見守り協定を締結し、地域包括支援センターおよび行政の関係各課と連携して、早期の安否確認、対応に貢献しています。



見守り安心サービス

10月からは無料で利用できる「安心メールサービス」を開始。配達時に、在宅状況や商品お届けの有無について、遠方にお住まいのご家族など事前に登録されたメール配信先へお知らせします。

また見守り対象者が倒れてしまっているような緊急時には、救急車の手配、警察への通報を行います。緊急時や異変を察知した際には、登録された方にも電話連絡をします。



配達担当4つのころえ

1. 私たち配達担当が窓口となります
2. 商品を大切にお届けします
3. 組合員のみなさんとの約束を守ります
4. 地域の配達担当として心配りを大事にします



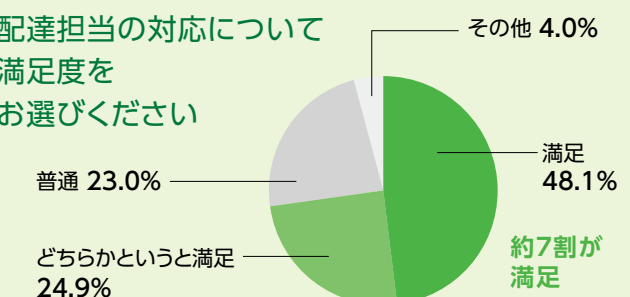
配達担当の見守り活動に
感謝の言葉をいただきました！

昨日のことですが、配達に来ていただいた時に母が倒れていたようです。救急車を呼んで、しばらくその場に居ていただいたとのこと。搬送が遅れていたら命にかかわる危険な状態だったようで、本当にありがとうございました。お礼が言いたいです。

〈問合せセンターに寄せられた声より一部抜粋〉

組合員に聞きました

配達担当の対応について
満足度を
お選びください



〈2016年度アンケート結果より〉

特集2

再生可能エネルギーを広げるために

パルシステム東京は全国の生協に先駆けて、2013年4月に子会社(株)うなかみの大地で新電力事業をスタートさせ、FIT電気(再生可能エネルギー)で発電した電力を中心に、パルシステムグループの事業所へ電気を供給してきました。2016年3月に(株)パルシステム電力へ移譲し、10月から組合員への供給を開始しました。



FIT電気(再生可能エネルギー)比率100%をめざして供給

「パルシステムでんき」は、鶏ふんを燃料として活用するバイオマス発電や、農業用水による小水力発電などのFIT電気(再生可能エネルギー)を中心に供給しています。また、「発電産地応援金」を料金プランに組み込み、新たな再エネ発電所の建設準備や発電所の運転経費などに活用しています。

2017年3月末までに983世帯のパルシステム東京組合員が「パルシステムでんき」に切り替えました。



畑の上に太陽光発電を設置した「ソーラーシェアリング」

発電産地との交流

発電産地から電気を買うだけでなく、組合員交流も進めています。

発電産地の一つ、埼玉県小川町のNGOソーラーネットの協力のもと、親子で太陽光パネルを作る体験企画や、栃木県那須塩原市や山形県長井市にある小水力発電所を見学するツアーなど、発電産地に対する理解を深めつつ親しみをもてるような交流企画を毎年開催しています。



1日ばかりで68枚のセルを特殊なハンダゴテで結合して、パネル2枚を手作り(8/27)



組合員からも好評の声をいただきました!

気になっていた「パルシステムでんき」にやっと切り替えました。取り寄せた書類に記入して提出するだけで、拍子抜けするほど簡単でした。携帯会社を変えたり機種変更するよりずっと手軽でスピーディ! もちろん電気も問題なく使えています。節電を心がけながら、再生可能エネルギーの電気を応援していきたいです。

古川久美子さん(小平市)



映画『日本と再生 光と風のギガワット作戦』にパルシステムが特別協賛

原発の問題点をわかりやすく取り上げた映画『日本と原発 私たちは原発で幸せですか?』『日本と原発 4年後』を手がけた河合弘之監督の最新作、『日本と再生 光と風のギガワット作戦』にパルシステムが特別協賛しました。

電力自由化から1年が経過してもなかなか広がらない新電力の実情を打破すべく、映画の中で河合さん自らが「パルシステムでんき」の資料請求をして、サインするだけで、電力会社の切り替えが可能なことを紹介しています。



映画『日本と再生 光と風のギガワット作戦』
製作・監督:河合弘之 企画・監修:飯田哲也
制作・配給:Kプロジェクト
特別協賛:城南信用金庫、生協パルシステムほか
2017年/日本/カラー/100分

Message

脱原発弁護士 河合弘之さんからのメッセージ



河合 弘之

弁護士。1944年生。さくら共同法律事務所所長。脱原発弁護団全国連絡会共同代表。福島原発訴訟弁護団代表、大飯・高浜原発差し止め処分弁護団共同代表、浜岡原発差し止め訴訟弁護団団長など、原発訴訟を多く手がける。
2014年、初監督映画『日本と原発 私たちは原発で幸せですか?』、2015年、映画『日本と原発 4年後』、2017年3月、映画『日本と再生 光と風のギガワット作戦』を公開。

最後に原発をやめさせるのは、市民の力!

裁判は、勝てば即効力があります。でも、裁判だけをやっていても、脱原発の意識は浸透していきません。原発問題の深刻さを市民に気づいてもらうために、映画という手段に賭けてみようと思いました。

前作の『日本と原発』は、大手の映画館では上映してもらえませんでした。市民による有料自主上映会を中心に全国に広がりました。これまでに1,800回以上も上映され、10万人以上が観ています。『日本と原発』の上映運動そのものが、脱原発運動なんです。

自然エネルギーは安全で楽しくて、しかも儲かる!

世界は本気で自然エネルギーに取り組んでいて、実績もあげています。その背景にあるのは、太陽光パネルや風力発電設備の大幅なコストダウンです。この10年間で太陽光パネルの価格は5分の1になっています。風力発電や太陽光発電の設備は1年で建ちますが、原発を建てるには10年かかる。面白いことに、自然エネルギーという最も素朴な方法が、最もいまのビジネスのスピードに合っているんです。

自然エネルギー100%への動きは、誰にも止められない

あと10年経てば、日本でも自然エネルギーがどんどん広がっていきますよ。リスクもコストも高い原発なんてやっていられなくなります。だから、この10年の間に原発の再稼働を止め続けることが大事なんです。僕がいちばん恐れているのは、「原発なんかやーめたっ」となる前に、もう1回事故が起きること。それを防ぐために、原発再稼働禁止の闘いをやっているのです。

この映画をつくって一番よかったのは、僕たちが最後は勝つと確信できたことです。自然エネルギーを100%にしようという動きは、もう誰にも止められません。世界的に大きな潮流だとわかったからです。

●河合さんへのインタビュー全文はパルシステムの情報メディア[KOKOCARA]に掲載しています。 kokocara.pal-system.co.jp





食べることは、生きること。 本物の味わいと安心を届けたい。

「食」の取り組み



1. 安全な「食」を求めて

安全・安心な農産物の生産に、農薬・化学肥料の使用削減と放射能対策は欠かせません。
 パルシステムではそれぞれ独自の基準を設定し、見直しを続けてきました。
 生産者とともに、より安全でおいしい産直農産物の生産に努めています。

農薬削減の取り組み

「コア・フード、エコ・チャレンジ」

パルシステムでは農薬と化学肥料の使用について独自の基準を定めています。
 有機の取り組みも広がり、青果や米など有機農産物の供給販売量は生協で第1位、国内の流通全体では第3位となりました（パルシステム調べ）。

パルシステム独自の基準「コア・フード」「エコ・チャレンジ」



コア・フード

有機JAS認証を取得した「有機農産物」、またはそれに準ずると判断された農産物。化学合成農薬、化学肥料を使わない※、パルシステムのトップブランド

※有機JAS認証での使用可能資材を除く



エコ・チャレンジ

パルシステムが定める「削減目標農薬」や除草剤、土壌くん蒸剤を使わず、化学合成農薬と化学肥料を各都道府県が定めた慣行栽培基準の1/2以下に減らして栽培した農作物



コア・フード、エコ・チャレンジのみを特集した独自チラシも発行

Report

産直カフェ

例年の「産直連続講座」を「産直カフェ」としてリニューアル。東京に若手生産者を招き、産直産地ならではの取り組みやおいしさの秘密を聞きました。参加者からは「若い後継者の方たちが努力や、苦勞をして取り組んでくれていることがわかった」「自然基準でお米の生産をしていることに感動した。消費者として生産者の取り組みを応援したい」などの感想が寄せられました。

- 全5回開催、のべ154人参加
- 産地：(株)花兄園[卵]、(有)なかむら農園[果樹]、NPO法人謙信の郷[米]、有機栽培あゆみの会[野菜]、(株)すすき牧場[畜産]



東日本大震災で甚大な被害を受けた(株)花兄園は、復興の道半ば(7/19)

環境保全型農業を実践するNPO法人謙信の郷(10/18)

パルシステムの商品づくり

食品添加物削減

パルシステムでは食品添加物の使用について国の基準よりも厳しい独自基準を設けています。
また、独自基準で使用を認める物質でも、できるだけ使用しない、使用を減らすなど厳しく運用。安易に食品添加物に頼らず、素材を吟味し、できるだけ素材の良さを活かした製造法を取っています。

組合員の声に応じてショートニングも不使用になった国産粉ホットケーキミックス



パルシステムの商品づくり 7つの約束

1. 作り手と「顔の見える関係」を築き、信頼から生み出された商品をお届けします。
2. 食の基盤となる農を守るためにも国産を優先します。
3. 環境に配慮し、持続できる食生産のあり方を追求します。
4. 化学調味料不使用で、豊かな味覚を育みます。
5. 遺伝子組換えに「NO!」と言います。
6. 厳選した素材を使い、添加物にはできるだけ頼りません。
7. 組合員の声を反映させた商品づくりを大切にします。

組合員による商品開発協力

月1回集まってメーカー、パルシステム、組合員が協力して論議を重ね、組合員の“ほしい”を組合員がプロデュースする商品開発チーム。

2016年度はパルシステム東京組合員の商品開発協力として子ども向けの味付け魚の開発に取り組みました。子どもが喜ぶ味付けをめざしたほか、利用者目線を活かし、フライパンひとつで調理できる利便性や買いやすい価格なども追求しました。

組合員が
開発協力
しました



商品開発チーム「めざせ! パル魚スキズ!」が開発協力した『さわらのカッチャン(甘みそ味)』は2017年6月から新発売

遺伝子組換えに「NO!」

パルシステムは遺伝子組換え作物および食品に反対する立場から、PB商品での遺伝子組換え原料不使用を追求しています。

一方、日本には遺伝子組換えのトウモロコシ、大豆、ナタネ、綿実を原料とする食品が大量に出回っているにもかかわらず、ほとんどの食品にその旨が表示されていません。2016年度は「遺伝子組換え食品いらない! キャンペーン」とともに、遺伝子組換え表示の拡充を求める署名を呼びかけました。

遺伝子組換え表示の拡充を求める署名数

パルシステム東京	39,480筆
全国	197,879筆

厳しい独自基準で商品検査

パルシステムは自前の「商品検査センター」で、お届けする商品の農薬、放射能汚染、衛生指標菌や食中毒菌などを検査しています。検査結果はホームページなどで定期的に報告しています。



微生物検査

細菌検査によって食中毒の原因となる有害微生物や汚染の指標菌の検査を行い、安全性の確認や品質管理をしています。

●2016年度検体数 7,008件



理化学検査

産直農産物や農産加工品などの食品に対し、農薬や添加物などの残留薬剤検査を行って安全性を確認しています。

●2016年度検体数 782件



放射能検査

放射能測定器2台で測定しています。乳幼児用食品の検出限界は1Bq/kgとして、より厳しく検査しています。

●2016年度検査数 4,023件

放射能レポートで情報発信を強化

パルシステムでは、食品の残留放射能について国の基準よりも厳しい自主基準(独自ガイドライン)を設定しています。放射能はこれ以下なら安全という「しきい値」がないため、基準以下であっても放射能低減を追求します。

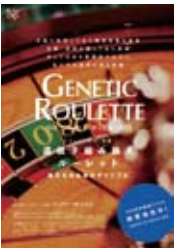
検査結果は毎週「放射能関係のお知らせ」として公表しているほか、12月からは「放射能レポート」を月刊で希望者に配付。検査結果や産地で行った対策などについて、わかりやすい情報発信に努めました。



Report

映画『遺伝子組換えルーレット』上映会

遺伝子組換え作物が、家畜や人体に及ぼす影響に警鐘を鳴らすアメリカのドキュメンタリー映画。2016年度の委員会企画で24回上映しました。



上映に合わせ、映画の翻訳に携わった安田美絵さんを講師に招いた学習会も開催(9/29 食べもの分野別9委員会)

2. 商品の価値を伝える

パルシステムグループは、商品を選ぶことで社会を変える取り組みを実践しています。
商品の価値を広めるため、生産者やメーカーを招く学習会や産地見学なども開催し、
組合員と作り手をつないでいます。

パルシステム東京が考える食育

「ともに作り、ともに食べる～一人ひとりがつながり、いのちをはぐくみ、生きる力を高めます」を目標として食育政策を定めています。

食育の取り組みをすべての組合員、そして地域へ、子どもから高齢者まで広げ、いのちの源である食を大切にすることや、自ら生きる力を高めることをめざします。

食育リーダー、PLAの食育講座

パルシステム東京の食育を広げるため、養成講座を修了した組合員講師「食育リーダー」「PLA（パルシステム・ライフ・アシスタント）」がさまざまな食育出前講座を開催しています。



食育講座では「ユネスコ無形文化遺産」に登録された和食の“お米＋汁二菜”の良さを伝える

Report 1

みんなで楽しいお弁当作り

毎日のお弁当作りをラクに楽しくするアイデアを実習で学びました。
講師の食育リーダーから、「前日に準備しておき、翌日はレンジで温めるだけにする」「パルシステムの冷凍野菜を利用する」など、ベテランならではのがんばりすぎないコツを聞きました。
(4/26)



Report 2

親子実験教室

小学生とその保護者を対象に、身近なものを使って食の安全や環境への影響を学ぶ親子実験教室を開催しました。
ハムの発色剤使用の有無による違いや、石けんと市販の歯みがき粉を使った後のそれぞれの味の変化など、体験を通じて学びました。色や味が変わるとに、子どもたちからは素直な喜びの声が上がっていました。(3/28)



「ほんもの実感!」商品の普及活動

「ほんもの実感!」くらしづくりアクション

組合員一人ひとりの「選ぶ」「買う」という行動が社会をつくっています。パルシステムがお届けする「ほんもの」の商品を選ぶことは、社会を変える力になります。また、作り手と食べ手の距離を近づけるため、消費者である組合員が生産者やメーカーと直接ふれ合う機会を大切にしています。

パルシステム東京では組合員活動や産直講座などに生産者やメーカーを招き、多くの組合員が直接作り手のこだわりや商品づくりの背景などを学んでいます。

PB商品や産直原料使用商品、組合員開発協力商品など「ほんもの実感!」対象商品の利用は、2016年度の食品の受注点数で前年度比102.0%、受注金額で103.3%の伸長でした。

委員会企画を通じた普及活動

委員会活動は身近な地域やテーマごとに、組合員同士が学び合いながら地域にパルシステムを広げ仲間を増やす活動です。「ほんもの実感!」商品の普及活動にも多くの委員会が参加し、生産者やメーカーから直接学ぶ機会を創出しました。

“選ぶで変わる”



Action1

「ほんもの」の価値を知り、一人ひとりが選択しよう!

Action2

「ほんもの」をつくる生産者・メーカーと会おう、話そう!

Action3

「ほんもの」をおいしくムダなく使いこなそう!

Report

ほんもの実感!オリーブオイルを知ろう

「産地限定エキストラバージンオリーブオイル」のメーカーから講師を招き、商品の食べ比べなどをしました。多くの参加者から「オリーブオイルの味の違いに驚いた」といった声がありました。
(1/23 国分寺K委員会)



100%再生PETボトル水の取り扱いについて組合員が論議

パルシステムグループの他生協では、2016年1月から100%再生PETボトル入りのPB商品『富士の天然水』の供給と、同PETボトルの回収を始めました。

しかし、パルシステム東京ではPETボトル水の必要性や環境への影響について組合員の論議を深める必要があるとして、取り扱いをしていません。

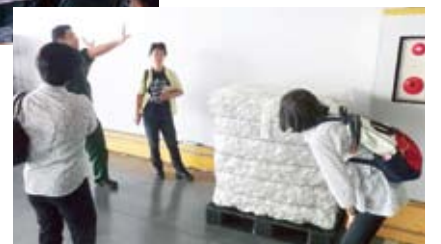
2016年度は組合員論議の参考とするため、パルシステムがこれまでPETボトルを扱ってこなかった経緯や、環境への影響を聞く学習会のほか、実際にPETボトルの再生加工を行う工場見学会などを開催しました。



ローリングストックによる震災被災時への備えや、プラスチックごみの大量廃棄問題や石油資源枯渇問題の解決の一助となるかなど、さまざまな観点からメリットとデメリットを踏まえて、100%再生PETボトル水の取り扱いについて論議



PETボトル再生工場などを見学



3. 食料自給力の向上をめざして

農作物輸入世界第1位の日本。食料自給率は先進国の中で最低水準となっています。
 パルシステム東京はTPPに反対し、国産の食べものを大切にする取り組みを続けています。

米づくりの体験実習「お米の出前授業」

2016年度も教育機関からの要請に応え、お米の出前授業を行いました。バケツ稲などで日本人の主食であるお米の大切さを学ぶ出前授業を2010年度から継続実施しています。授業では、お米ができるまでを暦や代表的な産地の紹介とともに学習。今と昔、それぞれの生産者の知恵や工夫を学びます。

2016年度 出前授業を受講した児童数

127校(のべ263回) **8,968人**
 (都内小学5年生の1割弱)



苗植え実習

脱穀すり実習

お米の出前授業で講師を務める職員より

毎日あたり前のように食べて、何気なく残してしまいがちなご飯…。お米の出前授業を通して、お米づくりの大変さや大切さを学び、“残さず食べる子!”になってもらえるような授業をめざしています。

パルシステム東京 商品・産直政策推進室
 中島スタッフ

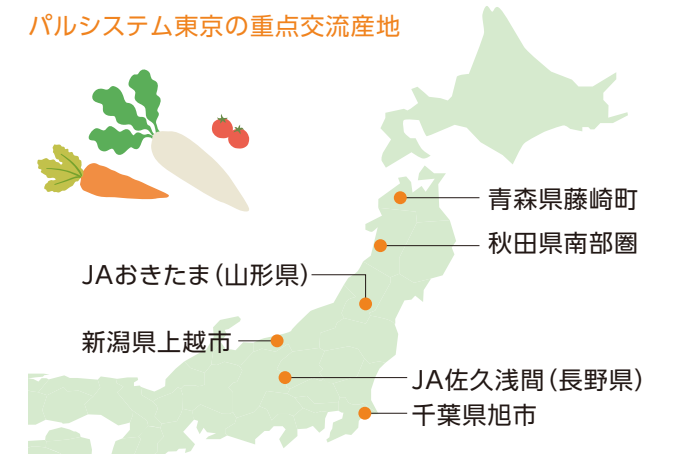


産地交流

組合員が実際に産地を訪れる交流は、日本の農業や産直農産物に対する理解をより深めます。多くの組合員がカタログでおなじみの産地や、パルシステム東京の重点交流産地(※)で、米や野菜などの農作業を体験しています。
 また東京でも生産者を招いて学習会や料理教室を開催し、「本当の顔の見える関係」を作り出しています。

※正式には「コア産直提携産地」。パルシステム東京と「食料と農業に関する基本協定」を締結し、商品のやり取りだけでなく、生産者と消費者の交流にも力を入れている産地

パルシステム東京の重点交流産地



Report 1

うなかみの大地 お米づくりチャレンジャー

千葉県旭市の(株)うなかみの大地の提携圃場で4月の田植えから9月の稲刈りまで3回に渡って農作業を体験。稲刈り企画では収穫した稲を1家族2束持ち帰り、自宅で粳摺りができるように資料も配付しました。(4/29、7/2、9/3)



Report 2

北海道えりものお母さん直伝! 昆布のお料理教室

「カルシウムや食物繊維たっぷりの昆布は、だしに使うだけではもったいない!」というえりも漁業協同組合 女性部のお母さんたちから、昆布巻き、カット昆布の炊き込みご飯など、産地ならではの昆布料理を学びました。(12/10)



TPP反対運動

TPP(環太平洋経済連携協定)が、日本の農林水産業、食料安全保障、食の安全に対して重大な影響を与えると予想されることから、パルシステムはTPPに反対しています。
 2016年度も「TPP交渉差止・違憲訴訟の会」をはじめ、TPP反対を進める他団体と連携し、組合員とともにTPP交渉参加への反対を訴えました。



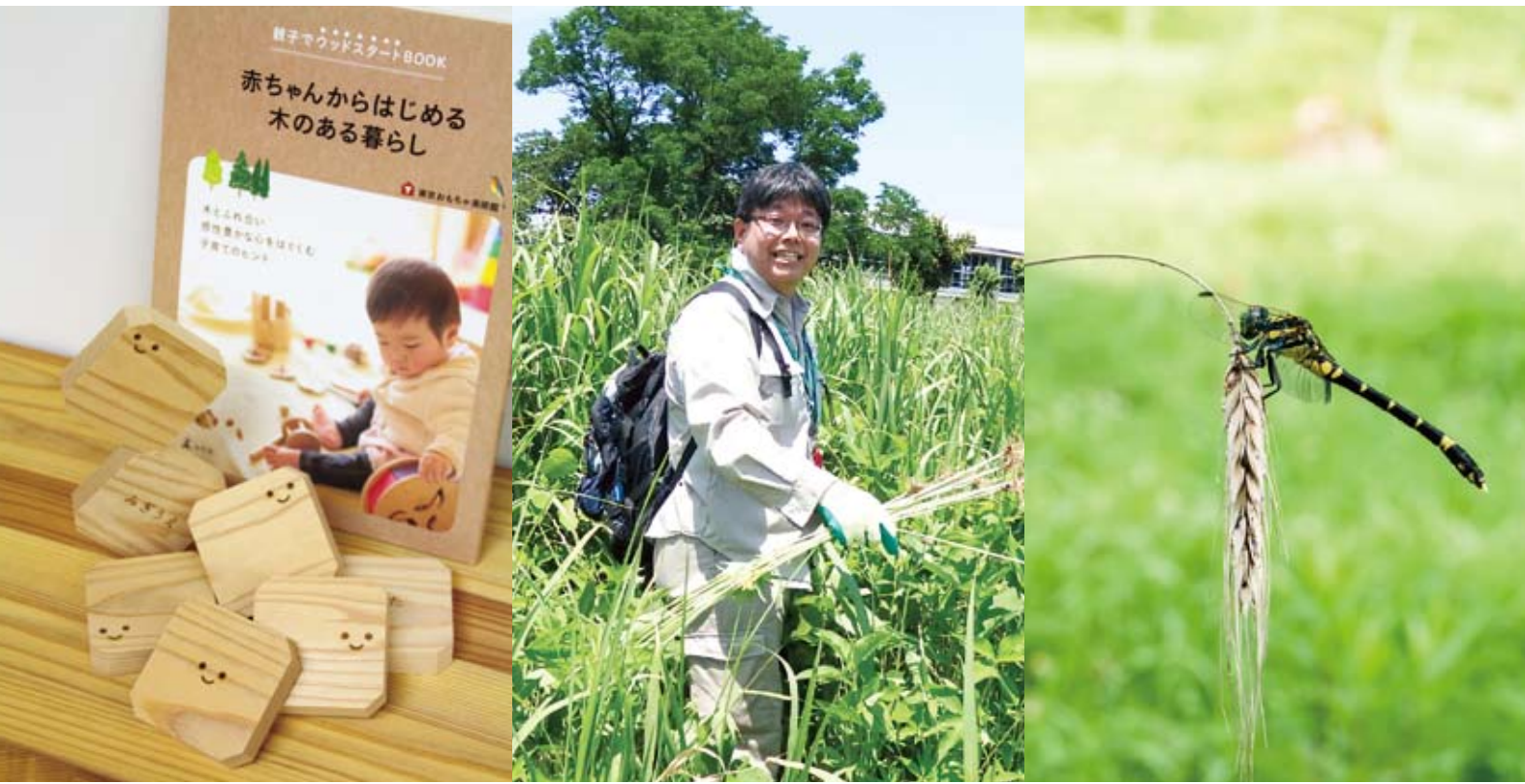
全国から約8,000人が集まったTPP反対デモの様子(10/15)

公開確認会

公開確認会は、生産者と消費者の二者が産地で生産状況を確認するパルシステム独自の制度です。1999年にスタートし、これまでの開催数は2016年度末で累計124回に上ります。2016年度は、パルシステム東京主催で「JAつくば市谷田部公開確認会」を開催しました。事前の講習会を修了した監査人と一般参加の組合員、生産者、生協役職員、関係者など152人が参加し、監査品目の生しいたけ(原木栽培)の栽培状況や帳票などについて確認しました。



薬剤を一切使用しない原木しいたけの栽培方法を確認(9/27、28)



未来の社会のために、 今の暮らしの中で、できることを。

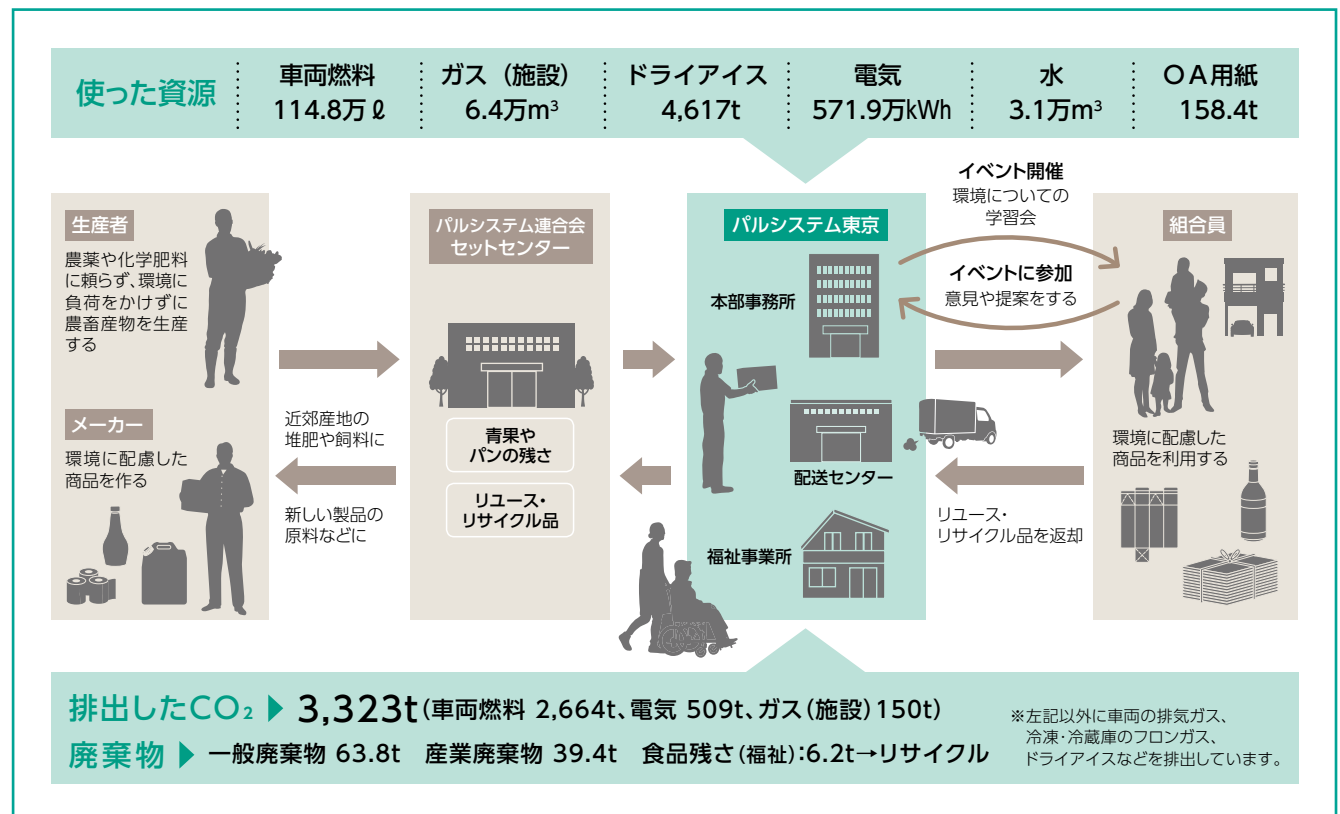
「環境」の取り組み

1. 地球温暖化を防ぐために

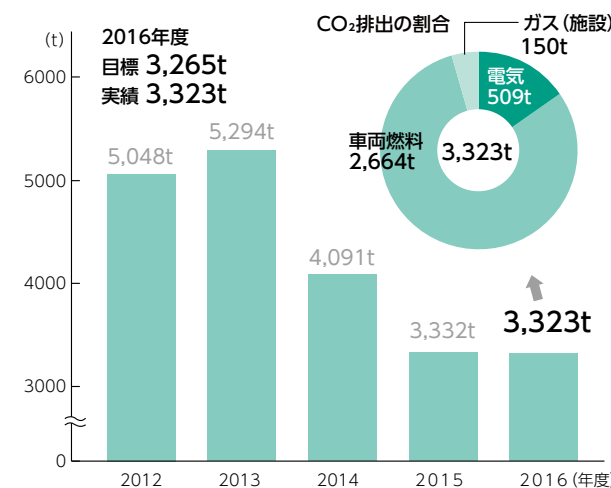
世界各地で地球温暖化が原因と見られる異常気象が頻発しています。
パルシステム東京は「地球温暖化対策の推進に関する法律」などに沿って、
再生可能エネルギーへの切り替えや省エネ設備の導入などの具体的なCO₂削減を進めます。

CO₂排出量の削減

2016年度は排出量を前年比98% (3,265t) 以内に抑える目標を立てて取り組んだ結果、CO₂排出量は3,323t (前年比99.7% 9t減) となりました。



CO₂排出量の推移



夏場の平均気温が1898年の統計以降で最高を記録した2016年度。空調機使用による電力量の増加、福祉施設の利用者増で入浴による電気、ガス、水の使用量増加などの影響があらわれました。また、組合員数の増加に伴って車両燃料の使用量増加もあり、それぞれの使用量の目標は達成できませんでした。

ただし、電気のCO₂実排出係数が前年度よりさらに低くなったことから、CO₂排出量は、前年度に比べ微減しました。引き続き、施設設備の改修計画に基づき、冷設、空調や照明機器類の入れ替えを進め、電力使用量などの削減に努めます。



再生可能エネルギーの活用

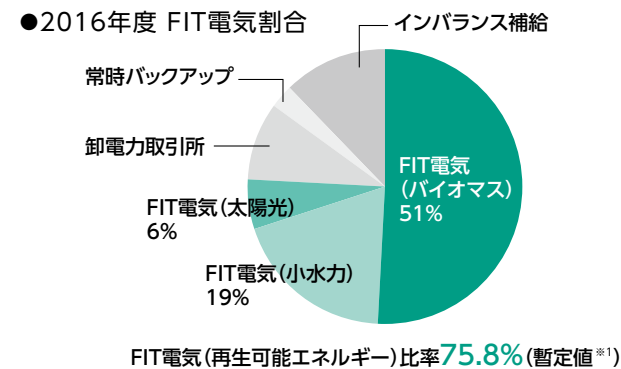
事業で使用する電力をパルシステム電力のFIT電気(再生可能エネルギー)を中心としたエネルギーに切り替えています。2016年度のFIT電気(再生可能エネルギー)比率は75.8%(暫定値^{※1})となりました。また電気のCO₂実排出係数が0.089kg-CO₂/kWhとさらに抑えられた^{※2}ことから、CO₂排出量は前年度より微減しました。

※1 2017年5月時点で、インバランス補給の電力量が未確定です

※2 東京電力エナジーパートナー(株)の電力を使用すると、実排出係数は0.500kg-CO₂/kWh

省エネ対策

継続的に全事業所を対象としたEMS(環境マネジメントシステム)活動を実施しています。具体的には、全事業所での残業の抑制やこまめな消灯など、節電行動を徹底するほか、事業所と本部のエネルギー使用量を管理し、CO₂削減に貢献しています。ハード面の対策として、計画的なLED照明への入れ替えを進めたことに加え、特定フロンガスR22を使用している配送センターの冷凍・冷蔵設備を、環境負荷の低い最新機種のR410Aに交換しました。さらに、配送センター内に設置している自動販売機42台全てを環境負荷の低い最新機種のノンフロン冷媒タイプに交換しました。



定期的な監査を実施し、指摘事項は随時改善

2. 一人ひとりの暮らし方を見直す

毎日なにげなく使う洗剤や、家庭から出されるゴミ…

一人ひとりの暮らし方次第で、環境問題の多くを改善できる可能性があります。

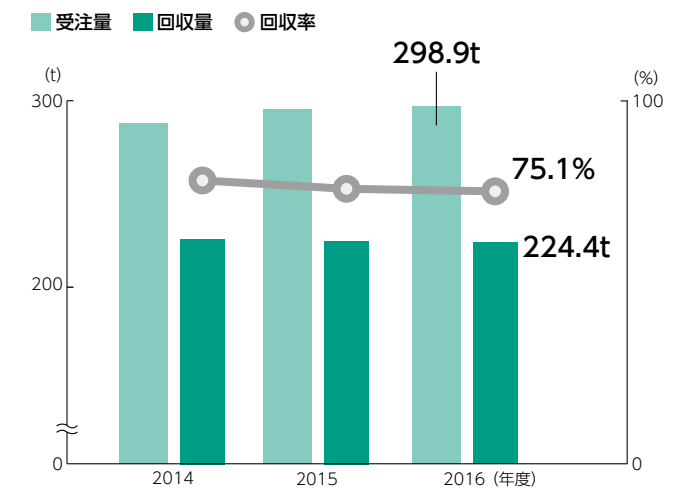
パルシステム東京ではさまざまな機会を通して、暮らしを見直す提案をしています。

3Rの取り組み

パルシステム東京は容器の軽量化や簡易包装、リユース・リサイクルできる容器への変更など、組合員や取引先の理解と協力を得ながら3R(リデュース・リユース・リサイクル)の取り組みを長年継続しています。

また、新たな回収資源の認知度向上を図った結果、お料理セットトレイの回収率は68.3%(前年度比127.9%)、米袋の回収率は36.4%(前年度比147.4%)と改善が進みました。

●紙パック 受注量・回収量と回収率の推移



トイレトペーパーなどの原料として認知され、回収率は7割以上をキープ

web動画「パルシステムの3R活動」



Report 1

新電力3周年記念講演

FIT電気(再生可能エネルギー)を中心とした電力を10月から組合員へ供給するにあたり、立命館大学教授の大島堅一さんを招き、新電力事業開始3周年を記念する講演会を開催しました。大島さんは「CO₂を削減し、地球温暖化を防ぎながら安定的に電力供給を行うためには、再生可能エネルギーの普及が不可欠です。」と話しました。(7/25)



Report 2

～地球温暖化防止のために～ 異常気象と私たちの暮らし

毎年のように更新される最高気温やゲリラ豪雨など、異常気象が起きやすくなっていると言います。東京管区気象台・地球温暖化情報官の戸川裕樹さんを講師に、異常気象と地球温暖化の関係について講演していただきました。(12/1 環境分野別4委員会連携企画)



Report 1

紙パックリサイクル工場 マスコ製紙(株)の見学

「リ・さいくりんぐシリーズ」のトイレトペーパー・ティッシュペーパーを生産するマスコ製紙、富士宮工場(静岡県)の見学を開催しました。組合員から回収された牛乳パックやABパック、OCR用紙を「リ・さいくりんぐシリーズ」の製品にリサイクルする工程を実際に見学し、担当者による説明や質疑応答を行いました。(6/21)



Report 2

容器包装リサイクル法の改正経過と現状 ～プラスチック廃棄物の3Rに向けて～

東京大学大学院教授の森口祐一さんより、容リ法の見直し論議を含めた改正経過と廃棄物処理の変遷をPETボトルのライフサイクルを例に解説していただきました。コストから見たリサイクルの意味などから、2R(リデュースとリユース)を一層進めることの重要性を改めて確認し、今後の廃棄物の発生抑制と削減を考える良い機会となりました。(8/2)



石けんの利用普及と有害化学物質の削減

農業や殺虫剤、合成界面活性剤など、身の回りにあふれる化学物質の中には、環境や人に悪影響を与えるものも多く含まれています。

家庭から排出される化学物質の約6割は、台所・洗濯用洗剤に含まれていることから、パルシステムグループは環境負荷の少ない石けんへの切り替えを組合員に提案しています。



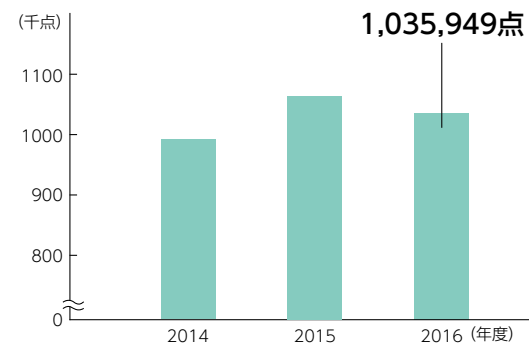
石けんの利用普及

重曹、酸素系漂白剤、クエン酸などの石けん関連商品を、汚れ落としやお掃除に活用する、自然派おそうじの学習会を継続的に開催。合成洗剤の問題点にも触れながら石けんの良さを広めています。組合員が開発協力した石けん商品のラインアップも好評です。



組合員が開発協力した石けん
シャンプー・コンディショナー

●石けんの供給実績



Report 1

「ぱる★キッズ府中」でミニ石けん学習会!

6・7月の環境キャンペーン月間に合わせて、パルシステム東京が運営する保育園「ぱる★キッズ府中」でパルシステム東京職員によるミニ石けん学習会を開催しました。石けんと合成洗剤で手を洗った後のすずぎ比べを行い、合成界面活性剤はすぐには泡が消えず、肌にも残留しやすいことを学びました。(6/18)



Report 2

簡単! 続けられる! 自然派お掃除術

組合員を講師に、重曹や石けん、アルカリウォッシュなどを使ったお掃除講習会を開催しました。手作り洗剤「とろとろ石けん」を使った実演では、想像以上にしつこい汚れが落ち、参加者からは大きな歓声が! 作り方もとても簡単で「これなら毎日続けられそう」と大好評でした。(7/8 荒川委員会)



有害化学物質を知る

家具や日用品に含まれる化学物質を吸い続け、それらが蓄積していつのまにか微量の化学物質でも体に不調が出る「化学物質過敏症」。その患者数は国内で70万～100万人と推定されています。

パルシステム東京では、環境や健康に負担をかけない暮らしを選ぶために、有害化学物質の削減のための学習会の開催や、情報の提供を行っています。

「環境ホルモン」こと内分泌攪乱化学物質を取り上げたチラシ



Report 1

身の回りの有害化学物質 香りの被害

シックハウス症候群や化学物質過敏症の要因ともされる室内空気汚染を知る学習会を開催。名城大学教授の神野透人さんは、「複数の殺虫剤や防虫剤の使用で汚染度は上がる」と指摘しました。「香りの強い柔軟剤や化粧品、アロマなどを不快に感じたり、体調を崩す人が増えており、科学的なメカニズム解明が急がれる」と話しました。(7/13)



Report 2

有害化学物質削減連続学習会 「化学物質にさらされない健康な暮らしときれいな海を守るために 私たちができること」

身近にある化学物質の汚染状況と、人の健康や環境に与える影響を学ぶ連続講座を開催。東京農工大学教授の高田秀重さんを講師に、プラスチック廃棄物が環境中に流れ込みマイクロプラスチックとなって海中や砂に残り、魚や貝からも発見されていることや、プラスチックが有害物質を吸着し海水を漂いながら再汚染するメカニズムなどについて解説していただきました。(7/9、8/8)



くらしの中の省エネ

家庭の省エネ診断

東京都認定「家庭の省エネアドバイザー」の資格を持つ組合員アドバイザーを養成し、希望する組合員宅への訪問診断を通じて、各家庭に合った省エネアドバイスをしています。「省エネ診断キット」を使って、一緒に検針票を見ながらエネルギー使用状況をチェックするほか、小型電力測定器やLED電球の貸し出しもしています。2016年度は39世帯の診断を行いました。

省エネ診断特設サイト
「電力消費の四天王 攻略方法! 教えます!」



配送センターでのイベント開催時には、省エネブースを出展

3. 身近な自然を守る

人々のくらしは多様な生き物が関わり合う、生態系からの恵みに支えられています。
生物多様性保全と、地球温暖化防止や有害化学物質の削減などの環境活動は、
深くつながっているという視点で、他団体とも連携した取り組みや学習の場を広げています。

生物多様性保全の取り組み

生き物モニタリング調査

都市部での生態系異変や気候変動に目を向ける機会を作り、生物多様性や人のくらしとのつながりを意識することで持続可能な社会をめざすことを目的としています。
「中央大学・東京大学・パルシステム東京協働プロジェクト」では毎年調査員を募集し、2009年度から2016年度までの8年間で、のべ893人が調査員となり、報告されたデータ数は32,540件となりました。
8月9日開催の「宿題パッチリ! 夏休み子ども生きモニ」では、JSTサイエンスニュースの取材があり、普段のくらしの中で科学的検証の一端を担えていることが評価されました。今後も市民参加の調査活動として継続的に実施し、生物多様性保全活動を維持します。



夏休みの自由研究にも役立つ恒例の親子企画「宿題パッチリ! 夏休み子ども生きモニ」(8/9)

「侵略的外来種」の駆除活動

「侵略的外来種」とは、強い繁殖力で地域の生態系を破壊する動植物のことをいいます。
地域の生態系や日本特有の種を守るため、地元の外来種駆除団体などと連携して駆除活動を行っています。

Report 1

光が丘公園で外来植物抜き取り

練馬区に昔からあるススキ原っぱで、恒例のセイタカアワダチソウの抜き取りをしました。外来植物が地下茎を伸ばして春に備えるこの時期に、その根を途中で切らないように、慎重かつ大胆にできるだけ長く抜くのがポイント。一生懸命作業をしたあとは、「うなかみの大地」のさつまいもを炭火で焼いて食べました。(12/11)



Report 2

里の川で生物観察と外来種の抜き取り

平井川は東京都の西部、あきる野市の北側を東西に流れる里の川。東京都の絶滅危惧種、カヤネズミが生息するカヤ原でオオブタクサやアレチウリなどの外来種の抜き取り作業を行いました。昼食後は、ミヤマカワトンボやサワガニなど水生生物を採集して、屋内で観察をしました。(6/18)



東京の緑を守る

野鳥公園や皇居、高尾山をはじめとする山々など、東京都には多くの緑が残っています。
緑地についての解説を受けながら見てまわることで、森や草原の果たしている役割について理解を深め、緑を守る活動につながります。

2016年度は日野市から川崎市まで続く多摩川南岸崖線斜面林をガイドとともに訪ねる企画を開催(3/7)



「いなぎめぐみの里山」保全

「農と緑の創生」をキーワードに2004年に開設した「いなぎめぐみの里山」では、毎年約2,500人前後の組合員が農業体験を中心に、里山体験や地域と連携した企画に参加しています。
2016年12月、所有者の土地売却方針を受けて、パルシステム東京は東京ドーム半分強の広さに当たる約7,466坪の用地を取得しました。再開発で急速に緑が失われつつある中、地域を活性化し、豊かな自然を次世代に手渡すため、パルシステム東京は里山保全のモデルを構築していきます。



企画参加とあわせて季節ごとの野菜収穫体験も楽しめる

Message

NPO法人「いなぎ里山グリーンワーク」代表 川島 貴さんからのメッセージ

「いなぎめぐみの里山」事業を受託し、2005年に里山の再生を図る目的でNPO法人「いなぎ里山グリーンワーク」を発足しました。里山では季節ごとの農業体験や森フェスなど、さまざまなイベントを開催しています。
どんなかたちでもいいから参加して楽しんでもらうことで、里山がどういうものか理解につながれば、と思います。今後も荒れている雑木林に手を入れるなどの里山を再生する取り組みや、地域とのつながりに力を入れていきます。



「いなぎめぐみの里山」の一年間



春(4～6月)

里山の散策 たけのご掘り
さつまいもの植え付け
いなぎ森フェス 大麦刈り取り
梅ジュース作り じゃがいもの収穫



夏(7～9月)

麦茶作り
ピザ作り
秋野菜の種まき



秋(10～12月)

落花生・さつまいもの収穫
さといもの収穫と煮会
クリスマスリース作り(年間会員)
正月飾り作り



冬(1～3月)

落ち葉掃きと焼きいも
じゃがいもの植え付け
春野菜の種まき



組合員一人ひとりの思いが 地域の笑顔につながる。



「人」の取り組み



1. 地域とつながる

地域のつながりが薄れる中で、組合員活動の広がりには貴重な存在です。

人と人がつながり、ネットワークが生まれ、地域の活性化につながることを期待し、

パルシステム東京は組合員の活動をさまざまな方法で支援しています。

また、継続的な市民団体とのつながりから、新しい可能性が生まれています。

地域で広がる活動

委員会活動

パルシステム東京の組合員活動は身近な地域やテーマごとに組合員同士が学び合う委員会活動を中心に、さまざまな活動をしています。

食の安全や環境をテーマにしたものから、くらしを豊かにする文化的活動まで、身近な地域でさまざまな活動に多くの組合員が参加しています。

パルシステム東京の委員会活動（2017年3月時点）

委員会数	181委員会
企画数	906件
参加組合員	のべ13,611人

Report 1

80歳の身体を疑似体験 お年寄りになって感じてみよう

地域包括支援センターの方を講師に、高齢者の動きや心情を体験しました。参加した子どもたちは、手足におもりを巻き、膝と肘にサポーター、厚手の手袋で自動販売機の飲料を購入。お金も入れにくいし、ふたも開けにくい…。「お年寄りは気遣ってあげなくちゃ」と子どもたちの感想が聞こえました。
(8/18 ほのぼの福祉委員会)



Report 2

災害時の食を考える やってみました！ポリ袋調理

調味料は少量で済み、栄養分も逃がさず、洗い物が少ないポリ袋調理に挑戦。ごはんや委員アイデアのクリームシチュー、蒸しパンなど5品を試食。パルシステム東京の防災担当、亀山職員のアドバイスを聞いた参加者たちからは、「材料をすべてポリ袋に詰め、大鍋でゆでるだけで簡単ね」との声がありました。
(10/25 笑顔の食育委員会)



Report 3

かんたんde超かわいい♪ オーナメントを作って飾ろう

ドライフラワーのアレンジなどで活躍している講師を迎え、アルファベットを象ったオーナメント作りの講習会。プロのアドバイスで、こんなに本格的な作品になるんだと参加者一同ビックリ。キャンドルに飾ったり、贈り物にと用途を考えるのも楽しそうでした。
(11/4 東大和B委員会)



Report 4

最新の便利アプリにビックリ！ スマホdeかんたん・かけいぼ

「家計簿はライフスタイルに合ったものを選ぶことが大切」と話すファイナンシャルプランナーの講師。忙しい主婦に最適なスマホの家計簿アプリを紹介。レシートを写メするだけで自動入力、1カ月の支出分析のグラフ化など、便利な機能に参加者は興味津々でした。
(11/10 家計活動委員会)



市民活動助成基金

組合員が商品やサービスを利用することで生まれた剰余金をもとに、誰もが安心して暮らしていける社会づくりをめざして活動している、草の根の市民団体を資金面で支援しています。また、団体間連携など助成終了後の連携づくりも進めました。助成を通して、団体が取り組んでいる顕在化していない社会課題について組合員や社会の認知を広げることにもつながっています。

市民活動助成基金 実績

2016年度 **14**団体 約**470**万円

1998～2016年度(累計)
のべ**219**団体 約**8,710**万円

助成団体の活動紹介

なゆたふらっと

不登校児童の居場所づくりからスタートし、2014年から「石神井ゆうやけこども食堂」(練馬区)を運営。月2回大人300円・子ども無料で食事を提供し、毎回30人ほどが集まります。食材は寄付金などで購入するほか、区内のこども食堂と共同で運営する農園で収穫した野菜を使うことも。



NPO 法人アクセプションズ

ダウン症のある子を持つ親たちによる有志団体。各種イベントや勉強会などを通じて、人と関わることを好み、感受性が豊かで心優しい彼ら・彼女たちの本当の姿を知ってもらうための活動を実施。世界的チャリティーウォーキングイベント「パディウォーク」を、2012年に初めて日本で開催し、5回目となる2016年は渋谷で開催。



たすけあい活動助成金

保障事業で生まれた剰余の一部を、よりよい地域社会の構築に向けて、組合員が自主的に行う子育て支援や福祉助け合い活動、ライフプランニング活動、健康維持活動などへの助成金として活用しています。

Report

たすけあい活動助成金を活用した取り組み

助成金を活用して、地域の担い手づくりのための説明会やワークショップ、ピンクリボンカフェなどを開催しました。このほか、江東センターより「みなみすなこども食堂」に月2回お米やその他食材の提供を行うなど、地域の居場所づくりにも助成金を活用しています。

●助成金申請事業：
地域の担い手づくり、地域の居場所づくり、
パルシステム東京映画祭、ピンクリボン運動、
子どもの救急医療などに関する学習会



パルシステム東京映画祭では3本の上映に約900人が来場(11/5)



ボプラ社「子そだちの森」とコラボした小児医療学習会(10/26)

地域福祉推進の取り組み

団塊の世代が後期高齢者(75歳以上)になる、いわゆる「2025年問題」が迫っています。

パルシステム東京は、小さな子どもから高齢者まで誰もが安心して、自分らしい暮らしを続けていくことができるように、地域ごとの福祉課題に取り組む「地域福祉」を推進しています。

認知症への理解と啓発の推進

地域で高齢者を支える担い手を育成するため、認知症サポーター養成講座を組合員や地域住民、職員向けに実施しています。2016年度は103人のサポーターを養成したほか、企業内だけでなく地域住民を対象に講師を務めることのできる「キャラバンメイト」を職員の中から1人養成しました。

認知症を支援する目印、
オレンジリング



センターまつりと同時開催の認知症サポーター養成講座では、医療生協と連携して組合員サポーターを養成(11/12)

居場所づくり支援

貧困・格差・社会的弱者の問題が大きくなる中、地域団体や行政・社協などと連携した居場所づくり支援を行っています。

また、組合員の自宅活用の要望を支援して立ち上げた「地域交流の家 たまりばランド」は、多摩市の社会福祉協議会から12月に「ふれあい・いきいきサロン」に登録認定されるなど、さまざまな試みが広がっています。



組合員が担い手として参加している世田谷区地域デイスサービス事業(要支援者対象)、「あじさいの家」を毎週開催

地域福祉講座を開催

地域の人々の助け合いや支え合いを社会に浸透させていくため、地域福祉講座を開催しています。

2016年度はカフェ経営を通じて地域の振興活動を行っている影山知明さんに、住民発のまちづくりを始めるためのヒントを聞きました。



「利用し合うのではなく応援し合う関係」という影山さんのメッセージに多くの共感が集まった(2/25)

2. 平和なくらしを守るために

平和で公正な社会の実現に向けて、2014年に「パルシステム東京 平和政策」を策定しました。

「平和な共生の世界をめざします」「一人ひとりが尊重され、いのちを大切に作る社会づくりをすすめます」「次世代が希望をもてる地域をつくります」を基本に、平和活動を続けています。

平和について学ぶ活動

平和スタディツアー

2016年度もヒロシマ・ナガサキの平和スタディツアー、沖縄戦跡・基地めぐり(日本生協連・各県生協連企画)に参加しました。被爆や戦争体験の継承と平和な世界の創造に向け、若い世代に平和活動を広げることを目的としています。

ヒロシマ・ナガサキでは被爆者の証言、市内原爆遺構めぐりなどを通じ、原爆被害の実相と、核兵器の非人道性などについて学びました。沖縄では講演会やフィールドワークを通じて、沖縄戦の歴史と米軍基地問題について学びました。



ヒロシマの平和記念碑(原爆の子の像)にて(8/4)

連続平和学習会

組合員一人ひとりが自分のこととして、日本国憲法や安保関連法制などを考えるきっかけの場となるよう、連続平和学習会を開催し、多くの組合員が参加しました。学んだことをもとに、一人ひとりが考え、自ら行動することが、平和な社会へ向けた一歩になると考えて、今後も平和学習会を継続していきます。

Report 1

木村草太先生に聞く！ 憲法から読み解く日本の平和

憲法学者で首都大学東京教授の木村草太さんから「集団的自衛権の行使については明確な憲法違反である」ことの根拠や、南スーダンの紛争をはじめ、自衛隊の海外での活動のあり方は、従来の専守防衛から大きな転換を迎えていることなどを解説していただきました。平和安全法制に基づく自衛隊の活動が、自分たちのくらしや未来、世界の平和を守ることにつながっていくのか、考える機会となりました。



Report 2

映画「広河隆一 人間の戦場」上映&トーク ～フォトジャーナリストから見た平和とは～

パレスチナ、チェルノブイリ、福島…と、命を脅かされる現実を記録する、フォトジャーナリストの広河隆一さんを追ったドキュメンタリー映画「広河隆一 人間の戦場」を上映しました。ご本人によるトークでは、これまでの歩みと今取り組んでいる被害者支援活動などについて話を聞きました。あわせて写真展も同日開催。



ピースフェス

平和への想いを共有するピースフェスを毎年開催しています。

2016年度は「平和への願い、日本から世界へ」をテーマに、第1部は「未来へつなぐ戦争の記憶」と題して、一人芝居やヒロシマ・ナガサキの平和スタディツアー、沖縄戦跡・基地めぐりの参加者による報告会を開催。第2部は「考えよう、『いま』世界で起きていること」と題して中東の紛争・難民問題から平和を考えるトークセッションを実施しました。

国際協力NGOによるフェアトレード商品などの販売の様子(8/27)



ピースカフェ

ピースカフェは「平和カンパ」などで関わりのある国際協力NGO団体などによる、組合員向けの出前講座です。紛争や飢餓、難民問題などを抱える国の現状を聞き、その国の料理を一緒に作ったり、民芸品や刺繍の手作り体験を交えたりしながら国際協力への理解を深めます。

2016年度は24委員会でピースカフェが開催され、組合員ら336人が参加しました。

夏休み親子企画「平和について考えよう」
(7/29 南葛西委員会/AAR Japan[難民を助ける会])



貧困・飢餓撲滅活動

平和カンパ、書き損じハガキ等の回収キャンペーン

紛争や難病、飢餓などの厳しい状況にある世界の子どもたちへの支援として、「平和カンパ」「書き損じハガキ等の回収キャンペーン」に取り組んでいます。くらしの中でできる国際協力として、多くの組合員が参加する運動に発展しています。

平和カンパ 実績

2016年度	7団体 650万円
1996～2016年度(累計)	約1億4,183万円

回収キャンペーン 実績 (換金額)

2016年度	2団体 1,290万8,234円
--------	------------------

児童労働反対運動「ストップ! 児童労働キャンペーン2016」

2016年6月、児童労働に反対する「ストップ! 児童労働キャンペーン2016」(児童労働ネットワーク)に賛同し、組合員へ参加を呼びかけました。6月23日には理事有志21人が「Red Card to Child Labour」カードをかざした写真を、レッドカードアクションのホームページに投稿しました。



3. 被災地の復興を支援する

東日本大震災と東京電力福島第一原発事故から6年。

パルシステム東京は「3.11を忘れない」を基本視点に、福島支援カンパや親子保養企画、子どもの甲状腺検診などに取り組むほか、被災者の体験談・実情を理解するためのスタディツアー、シンポジウムなどを継続的に実施しています。

また、日本や世界各地で発生する災害による被災者への支援カンパも随時行っています。

被災地のいまを知る

「3.11を忘れない」をキーワードに東日本大震災復興支援シンポジウムを毎年開催しています。5回目となる2016年度は「考えよう、応援しよう、震災後のふくしま」と題し、ベラルーシで長期に渡り医師として活動し、現在は長野県松本市市長である菅谷昭さんを講師に迎えて開催。チェルノブイリ原発事故の検診データやその後の現地の様子などを通じて、原発事故がもたらす被害について学びました。

疫学的事実を集積するための健康調査継続の必要性や、保養の大切さについて言及する菅谷昭さん(3/11)



Report 1

仮設住宅の夏祭りボランティア in 宮城&東松島・石巻被災地見学

1日目は、ひびき工業団地仮設住宅・根古仮設住宅共催の「夏祭り」支援(飲料販売などの出店、自治会出店の手伝い、イベント企画など)と、自治会との交流会を通じ、仮設住宅避難者の現況に耳を傾けました。

2日目は石巻市、木の屋石巻水産美里町工場、東松島市野蒜地区などで、語り部の説明を受けながら、復興の現状を見聞しました。(7/24～25)



Report 2

福島スタディツアー

梨の産地・うもれ木の会や、きゅうりなどの産地・みちのく野菜倶楽部では、原発事故当時の対策や栽培の様子を見学。エネルギー事業に動き始めた二本松有機農業研究会では、有機の畑の見学と農地の上にソーラーパネルを設置する営農型発電の概要を学びました。

また、NPO法人ふよう土2100の「放課後等デイサービスがっこ」では、障がいのある子どもたちの居場所づくりについて話を聞きました。(10/8～9)



被災地を支援する

原発事故被害者の救済を求める署名活動

原発事故による避難指示区域外の避難者の無償住宅供与が2017年3月で打ち切られることを踏まえ、支援打ち切りに反対する請願署名に取り組みました。

全国から寄せられた署名と合わせて、10月26日に衆参両議院議長、内閣総理大臣、復興大臣に提出しました。

原発事故被害者の救済を求める全国運動 第三期請願署名

パルシステム東京	30,995筆
全国	193,197筆

震災復興支援基金「^{ミライカ}パル未来花基金」

組合員による東日本大震災の復興支援活動を資金面で支援する制度です。

パルシステム東京組合員が代表の3人以上のグループに、年度最大50万円を助成します。

パル未来花基金 実績

2016年度	13団体 400万円
2014～2016年度(累計)	のべ41団体 約1,027万円



被災地の手作り小物を販売支援

支援カンパ

2012年度から福島の子どもたちを放射能から守る市民団体を支援しています。

また、各地で起きる異常災害などによる被災者に対し、迅速に情報を入手し、必要な組織支援を進めています。2016年度は4月14日に発生した熊本地震の被災者を支援するための緊急支援カンパに、パルシステムグループ全体で取り組みました。また、被災者支援活動にのべ11人の職員を派遣しました。

福島支援カンパ 実績

2016年度	6団体 937万6,134円
2012～2016年度(累計)	約4,640万円

熊本支援カンパ 実績

パルシステム東京	8,522万0,900円
パルシステム(全体)	2億3,994万3,642円

子どもの甲状腺検診

2016年11月～12月、福島支援カンパ贈呈先団体「いわき放射能市民測定室たらちね」および「東京都医療社会事業協会」の協力を得て、組合員と福島からの避難者の子どもを対象にした「子どもの甲状腺検診」を3回実施し、174人が受診しました。

また、「子どもの甲状腺検診」に先がけてキックオフ学習会を11月5日に開催。組合員や役職員107人が放射能の影響や甲状腺検診への理解を深めました。



甲状腺検診の様子

働く環境づくり・人材育成

ユニフォームの刷新

パルシステムのユニフォーム制定から10年以上が経ち、ユニフォームの満足度についてアンケート調査を行ったところ、7割弱の職員が「速乾性、耐久性、伸縮性」に関して不満を抱いていることが確認されました。アンケートをもとに機能やデザインを改善し、今回のユニフォームに刷新しました。

新ユニフォームの特長

- UVカット、速乾吸水加工のポロシャツ
- 軽量化、保温性向上
- 各アイテムに反射素材、静電気防止を採用 など



雇用定着のための制度改善

正規職員の安定的な採用を確保するため、採用時における基本給の引き上げを行いました。また、引き上げにともなう既入協者との基本給の逆転現象を是正するため、2007年度入協職員までの是正措置を行い、若年層の処遇を改善しました。

また定時職員の場合、毎年4月の昇給より最低賃金の上昇幅が大きいことにより、入協暦の長い職員との昇給差がなくなることが課題でした。これを受け定時職員の賃金体系に勤続給を新設し、長年組織に貢献いただいた職員の処遇に反映されるよう改善しました。

「くるみん」を取得・更新

「一般事業主行動計画」を策定し、少子化対策を計り子育て支援など一定の基準を満たした企業や法人などが厚生労働省によって認定される「くるみん」マークを取得しています。

※パルシステム東京のホームページでも「一般事業主行動計画」、「女性活躍推進法に関する一般事業主行動計画」を公表



女性職員を中心としたチーム編成

女性の配達担当職員の配送負荷軽減を目的として「女性専用コース」を新たに設け、女性比率を高めた人事配置を2つの配送センターで行いました。組合員からの評価も良く、事業運営の改善が組合員サービスの向上にもつながりました。今後も他のセンターに拡充していきます。

2016年度の職員数

- パルシステム東京正規職員376人のうち、女性職員は42人
女性管理職は0人(2017年3月末現在)
- 2016年度新卒採用7人のうち、女性採用は4人(57.1%)



教育・研修プログラム

パルシステム東京の理念・ビジョンの浸透を図り、日常の業務に活かすためにさまざまなプログラムを行っています。

産地研修・パルカレッジ

2016年度もパルシステム東京独自の産地研修に役職員および委託協力会社社員が参加し、青森、秋田、新潟、千葉、茨城、埼玉の6県7産地で研修を実施。のべ272人が参加しました。また、職員の階層ごとに習得すべき知識だけでなく、生協の基礎から経営管理、商品知識を学ぶパルカレッジを多彩な内容で展開しています。パルシステム東京からは、のべ441人が参加しました。



障がい者雇用

障がいのある職員が、配送センター、陽だまり、本部内でさまざまな業務を行っています。入協前に、職場体験実習や就職を見据えた実習などを行い、仕事のイメージや職場環境を体験した上で採用。2016年度もご家族や関係者同士の交流会を行いました。2016年度の障がい者雇用実績は395人(年間のべ人数)、法定雇用率2.0%をクリアしています。(2016年度実績3.2%)

障がい者雇用人数			
年度	2014	2015	2016
人数	337	376	395



業務の幅も広がり、さまざまな職場で戦力として活躍し、なくてはならない存在となっている

労働安全衛生の取り組み

安全で働きやすい職場環境を作るため、各事業所で月1回の「安全衛生委員会」を開催。リスクアセスメントや4S(整理・整頓・清掃・清潔)、産業医による職場巡回などの実施により、健康管理および労働災害防止のための改善に努めています。



メンタルヘルスに関する取り組み

職員のメンタルヘルスや健康についてのさまざまな相談に、産業カウンセラーと看護師資格を有する産業保健スタッフが対応。専門性を活かし、職員の心と体の健康管理を支えています。

リスクマネジメント

内部統制システムの推進

組合員と社会に信頼される健全な組織体制を整備するために、「内部統制システム基本方針（組織体制の整備と運用を効率的に行うために必要な基本方針）」（2009年12月制定、2015年3月改定）に基づき取り組んでいます。

内部統制システム基本方針の検討

毎年定期的に ①機関設計の見直し ②法改正 ③生協業界の動向 ④業務内容の大幅な変更 ⑤その他事項の項目にそって検討を行っています。

リスクマネジメントシステムの構築

組織の事業活動の中で想定されるリスクを洗い出し、そのリスクに対するマニュアルや規程類の確認を行いました。その上で組織全体および部署ごとに重要度の高いリスクに対しての対策や計画を策定しました。

財務報告の信頼性確保

財務報告の信頼性確保はもとより、業務の効率化および「仕事の見える化」を推進するため、決算における業務処理、作業もれを点検するチェックリストの運用を行っています。

内部監査の専門性・信頼性

日本内部監査協会の認定資格である内部監査士の資格を取得した職員が、内部監査の専門性・信頼性の確保のために研修受講などにより、監査能力の向上に努めています。

子会社における内部統制

子会社における財務報告の信頼性確保のため、発生主義による会計処理と経理処理の自計化（経理担当が自分で会計ソフトに必要データを入力すること）を行っています。

コンプライアンスの推進

法令・内部規則だけでなく、倫理面でも組合員・社会の期待に応えられる行動や判断を行うための指針として行動規範を定めています。

行動規範カード

「パルシステム東京行動規範」の本文を掲載した「行動規範カード」を役職員は常に携帯します。カードには「行動規範」のほか、「コンプライアンス相談窓口連絡先」「こことからだの健康相談窓口」「交通事故発生時の対応」「災害発生時の安否連絡手段」などを掲載しています。

相談窓口（ヘルプライン）

職員からの相談案件に対応するほか、違反行為の防止や、迅速な是正を目的に設置しました。

コンプライアンス委員会

専務理事のもとに設置され、常勤理事および執行役員並びに2人の外部有識者で構成。特に外部有識委員（弁護士、コンプライアンス専門家）の意見・具申は、効果的な牽制機能となっています。

『商品』に寄せられる共感を『取り組み』への共感につなぐ

「ともに つくる くらしと地域」 2020ビジョンの実現に向けて

パルシステム東京は2020ビジョンの実現に向けて、中長期の計画を立てて事業と活動を進めています。

2020年を3年後に控えた今、とくに取り組むべき課題について整理します。

組合員の平均年齢上昇に歯止めを

パルシステムは「安心安全な商品が欲しい」という組合員の願いを叶えるために、産直運動や環境に配慮した商品づくりを進めてきました。組合員からの支持と利用が広がった結果、日本の農畜産業を守り、豊かな自然環境を守り、地域社会の発展にも貢献してきました。

現在、46万人いる組合員の平均年齢は53.3歳。2年前の調査と比べ3歳引き上がったことから、若年層の利用と定着が課題となっています。スマートフォンが普及し、買い物チャンネルが増える中、若年層から支持され続けるためには、常に進化が求められる時代。事業と活動の両面において、とくに20～30代の組合員ニーズを満たせるよう、さまざまな施策を遂行していかなければなりません。

商品の利用は「社会をつくる運動」

「パルシステムの商品の良さ」への共感を、どのように「パルシステム東京のさまざまな取り組み」への共感につなげられるか、ということも大きな課題と言えます。

パルシステム商品の物語を知る。生産者との交流で買い支えの大切さを学ぶ。商品を知る仲間同士で協同の輪を広げる。学び、行動する組合員を増やすため、さまざまな立場や世代の組合員が生協の活動に参加しやすい仕組みを構築していく必要があります。

次世代を担う職員の育成においても、多様な考えを尊重しお互いを認め合う組織風土を守り、一人ひとりが学べる場を増やし、ビジョンの実現をめざしていきます。



生活協同組合 パルシステム東京
専務理事 辻 正一

生活協同組合 パルシステム東京

本部事務所 ————— 〒169-8526 新宿区大久保2-2-6 ラクアス東新宿
TEL 03-6233-7600(代) FAX 03-3232-2581
Eメール palsystem-tokyo@pal.or.jp

配送センター ————— 江戸川センター 〒132-0025 江戸川区松江2-10-18
江 東 セ ン タ ー 〒136-0076 江東区南砂2-36-1
足 立 セ ン タ ー 〒121-0011 足立区中央本町4-3-7
港 セ ン タ ー 〒108-0075 港区港南5-5-12
大 田 セ ン タ ー 〒146-0081 大田区仲池上1-31-1
板 橋 セ ン タ ー 〒174-0041 板橋区舟渡3-20-28
池 尻 セ ン タ ー 〒154-0001 世田谷区池尻2-23-4
練 馬 セ ン タ ー 〒179-0073 練馬区田柄4-38-5
世田谷センター 〒157-0061 世田谷区北烏山7-21-11
狛 江 セ ン タ ー 〒201-0003 狛江市和泉本町4-5-24
三 鷹 セ ン タ ー 〒181-0013 三鷹市下連雀6-15-18
府 中 セ ン タ ー 〒183-0052 府中市新町2-29-4
東村山センター 〒189-0011 東村山市恩多町1-10-1
多 摩 セ ン タ ー 〒206-0032 多摩市南野1-2-5
立 川 セ ン タ ー 〒190-0034 立川市西砂町6-16-7
八王子センター 〒192-0033 八王子市高倉町4-7
青 梅 セ ン タ ー 〒198-0024 青梅市新町3-11-1

福祉事業所 ————— ●● 江戸川陽だまり 〒132-0025 江戸川区松江2-10-18
● 辰巳陽だまり 〒135-0053 江東区辰巳1-2-9-101
●● 辰巳陽だまり 〒135-0053 江東区辰巳1-1-34 辰巳ビル3F
● 東雲陽だまり 〒135-0062 江東区東雲2-4-3-106
●● 八潮陽だまり 〒140-0003 品川区八潮5-2-2 八潮ビル2・3F
●●● 中野陽だまり 〒164-0003 中野区東中野4-7-9
●●● 第2中野陽だまり 〒164-0003 中野区東中野1-4-10
● 中野中央陽だまり 〒164-0011 中野区中央5-41-18 東京都生協連会館5F
●● 上町陽だまり 〒154-0017 世田谷区世田谷2-8-2
●● 狛江陽だまり 〒201-0003 狛江市和泉本町4-5-24 ● デイサービスセンター
●● 府中陽だまり 〒183-0054 府中市幸町2-13-29 ● ホームヘルプサービス
●● 府中陽だまり 〒183-0054 府中市幸町2-13-30 ● ケアマネジメントサービス
●● 東村山陽だまり 〒189-0011 東村山市恩多町1-10-1 ● 認知症対応型デイサービスセンター
● 愛宕陽だまり 〒206-0041 多摩市愛宕3-2 愛宕かえで館1F ● 認知症対応型グループホーム
福祉用具サービス
陽 だ ま り 〒169-8526 新宿区大久保2-2-6 ラクアス東新宿

保育園 ————— ぱる★キッズ府中 〒183-0054 府中市幸町2-13-29

関連施設 ————— パルひろば辰巳 〒135-0053 江東区辰巳1-1-34 辰巳ビル2F
下 馬 会 議 室 〒154-0002 世田谷区下馬4-13-6

ホームページ パルシステム東京 検索 <http://www.palsystem-tokyo.coop/>

発行 生活協同組合パルシステム東京 広報室